

<b>日英教育学会</b> <b>JAPAN-UK EDUCATION FORUM</b> NEWSLETTER No.51 2018/6/13	<b>日英教育学会事務局</b> 〒114-0033 東京都北区十条台1-7-13 東京成徳大学子ども学部 青木研究室内 TEL 03-5948-4464 jimukyoku@juef.sakura.ne.jp
--	---

## 日英教育学会第27回大会のご案内

### 【会場】

実践女子大学 渋谷キャンパス 〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49  
メイン会場：602 教室、会員控え室：60A 教室  
連絡先 seida-natsuyo@jissen.ac.jp (清田夏代)

### 【大会スケジュール】

8月27日(月)

10時00分～11時30分	運営委員会(60C教室)
11時30分～12時30分	シンポジウム打ち合わせ(60B教室)
13時00分～17時30分	公開シンポジウム(602教室)
18時00分～20時00分	懇親会

8月28日(火)

9時00分～11時30分	自由研究発表(602教室)
11時30分～12時30分	総会(602教室)

《大会参加費》 3000円(一般会員)、1000円(学生会員)  
《懇親会費》 5000円

- 【禁煙】 キャンパスは全面禁煙です。ご協力をお願いいたします。
- 【宿泊】 各自でご手配をお願いいたします。
- 【昼食】 夏季休暇中のため、学食、コンビニエンスストアは開いておりません。会場の周辺にはコンビニエンスストア、食事場所などが多数ありますので、そちらをご利用ください。

【 公 開 シ ン ポ ジ ウ ム 】 8 月 27 日(月) 13 時～17 時半 (602 教室)

テーマ 【スタンダード化時代の教育リーダーシップ (仮)】

企画趣旨

教育のスタンダード化は、グローバルな教育改革における一つのキーワードとして、先進諸国で一般的にみられるようになってきている。他の公的領域の改革トレンドにも影響されながら形成されてきたこの潮流は、①テストによって測定される学習成果により大きな強調点を置く、②学校をビジネスのように運営させ、学校、及び／あるいは教師の成功と不成功を二項対立的に評価するような学校内部の民営化を推し進める、③国の教育政策として、教材、学校改善のノウハウの売買、民間団体の学校運営への参画などを可能にするような外的な民営化、④教職の専門性をしかるべきデータの算出過程に置き換えるような脱専門職化など、様々な教育上の改革を含んでいる。

こうした新しい環境の下で、改革の成否を分けるものとして着目されているのが校長のリーダーシップである。スタンダード化の改革は、校長を含む教育専門家の専門性を政策的に定義しなおすものであり、その充足感<sup>well being</sup>、アイデンティティ、そして実践をも作り変えようとするものである。

ゲストスピーカーであるマンチェスター大学のヘレン・ガンター教授には、学校リーダーシップに関する主流のディスコースがいかなるもので、それがイングランドあるいはヨーロッパでどのように構築されてきたものであるのかについて論じていただく。同時に、教育文化や国の政策との関係性の違いを踏まえて、日本や英国、その他の国における相違点などについて講演していただく。日本側パネリストには、東京大学の勝野正章氏、また、福岡市立東光中学校の前校長である元主浩一氏を迎え、日本における学校リーダーシップの特徴、また学校現場における校長のリーダーシップの可能性と課題などをめぐり、議論を深めていきたいと考える。

(仲田康一)

〔基調講演〕

ヘレン・ガンター (マンチェスター大学教育学部教授)

教育政策分野を主な研究領域とし、教育リーダーシップについては『教育リーダーシップとハンナ・アレント (*Educational Leadership and Hannah Arendt*)』(Routledge)、『教育リーダーシップ--新自由主義時代の専門的実践を理論化する--(*Educational Leadership : Teorising Professional Practice in Neoliberal Times*)』(Routledge) などの著書がある。また、複数の国にまたがる教育リーダーシップ政策研究の比較研究を展開しており、『イングランドの教育におけるリーダーシップの民営化と香港およびアジア全域にわたる新自由主義の影響(*Privatizing Leadership in Education in England and Neoliberal Influences in Hong Kong and Throughout Asia*)』などの著書や、「バンラディシュの高等教育のリーダーの役割における女性(Women in leader roles within higher education in Bangladesh)」(*Management in Education* 誌) のような論文など、同領域について多数の研究成果を有する。

[パネリスト]

**勝野正章** (東京大学大学院教育学研究科教授)

教育政策・教育行政分野を研究領域とし、昨年度から校長のリーダーシップの日本の特徴に関する科研費研究を行うなど、教育のリーダーシップについても研究を蓄積している。著書に、『教員評価の理念と政策: 日本とイギリス』(エイデル研究所), 『教育行政と学校経営』(放送大学教育振興会; 小川正人氏と共著), 『日本における教員評価の政策と実践: パフォーマンスは学校でいかに作用しているか *Teacher evaluation policies and practices in Japan: how performativity works in schools*』(Routledge) などがある。

**元主浩一** (福岡市教育委員会福岡市教育センター巡回研究指導教員, 元福岡市立東光中学校校長)

困難な社会的背景を抱える地域の中学校に教頭として赴任し、後年校長へと昇任。校長となってからは生徒指導に加え「学び合い」を中心とした学校全体の授業改善に取り組み、生徒の行動や情緒、さらには成績面において顕著な成果をあげ、全国的にも注目を集めてきた。校長職を定年退職後、福岡市教育委員会に所属し、校長としての経験や知見を学校現場に伝える活動に精力的に取り組んでいる。

[司会]

仲田康一 (大東文化大学)

[コーディネーター]

仲田康一 (大東文化大学) / 清田夏代 (実践女子大学)

### 【交通アクセス】



◎ 渋谷駅《JR (山手線、埼京線、湘南新宿ライン) / 東京メトロ (銀座線、半蔵門線、副都心線)、東急 (東横線、田園都市線)、京王井の頭線 東口 (東急南口)》から徒歩約 10 分

◎ 表参道駅《東京メトロ (銀座線、半蔵門線、千代田線) B1 出口から徒歩約 12 分》

(清田夏代)

## 実践女子大学(研究公開促進費)・日英教育学会共催企画 報告

テーマ 「就学前教育における評価のこれから—英国 SSTEW スケールを通して考える—」  
〔社会の変化とカリキュラム改革を見通し、多様な子どもの学びを支えるための評価の  
実際と課題を考えるシンポジウム〕

基調講演：サセックス大学（英国）教育学部・デニス・キングストン（Denise Kingston）

パネリスト：聖徳大学・榊瑞希子

パネリスト：お茶の水女子大学・小玉亮子

パネリスト：実践女子大学・井口眞美

司会：東京成徳大学・石黒万里子

コーディネーター：東京成徳大学・石黒万里子／実践女子大学・清田夏代

日時： 平成 30 年 1 月 27 日（土）

13 時 00 分 ～ 17 時 00 分

場所： 実践女子大学渋谷キャンパス 601 教室

本企画では、英国の就学前教育評価スケールの一つである SSTEW スケールの開発者の一人であるデニス・キングストン博士（サセックス大学）の基調講演を中心に、「イギリスの保育と評価スケール～開発の背景を探る～」としてイギリスの幼児教育の過去と現在及び課題、日本への示唆（榊瑞希子）、「幼児教育における評価と多様性」として中国とアメリカ及びドイツの就学前教育評価システムの比較（小玉亮子）、また「日本の保育における評価」として、日本の幼稚園教育要領改訂とそこで提起されている保育の質の在り方とそれへの評価方法、課題（井口眞美）などの論点が提起され、それらをめぐって議論された。近年、日本、英国を含む多くの国において、教育水準の基準化と評価、それを通じた教育改善が初等・中等・高等教育のすべての教育段階において厳しく要求されるようになってきている。一方、これまでは比較的そうした厳しい評価の対象外とされてきた就学前教育においても、近年は公的な評価基準が設けられ、教育・保育の質について評価されることが求められるようになってきた。本企画は、こうした状況を背景に、教育統制の方法と枠組みの一端を、就学前教育を切り口に検証することを目的として企画された。

英国においては、教育・子どもサービス・スキル水準局（Office for Standard in Education, Children's Service and Skills: Ofsted）が、教職課程や成人教育部門なども含めて、全英の教育に関わるあらゆる施設・機関・個人に対して評価を行っており、本企画の企画者・申請者は、Ofsted



を対象の一つとして英国の教育ガバナンス研究を行ってきた。本企画においては、「誰が何を根拠に」基準を設定するのか、また、評価を行うのかという問いも扱われ、基準・評価を通じた教育統制の問題に関して、大いに議論を深めることができた。また、近年各国の就学前教育改革の前提として、OECDによる幼児教育ケアの国際比較『幼児期の始まりこそ力強く (*Starting Strong*)』と、それが各国に与えたインパクトについても論じられ、基準と評価による統制があらゆる部門に及んでいる現状とその問題に対する理解を深めることができたのではないだろうか。



(清田夏代、石黒万里子)

## 連載 第2回 英国教育研究アーカイブス

### —木村先生蔵書のリスト化計画1—

ニューズレターNo.50でご紹介した通り、本号より故木村浩先生の蔵書リストの第一弾をお知らせします。紙幅の都合で、まずは段ボール1箱目に限定させていただきます。以下にご紹介する資料にご興味がおありの場合は、学会事務局 (jimukyoku@juief.sakura.ne.jp) までご連絡ください。

#### 1 大学カレンダー

##### **Edinburgh University**

Calendar 1972-73

Programme in 1972-73 - Science/ Dental Surgery/ Music/ Postgraduate Study/ Law/ Medicine/ Arts/ Nursing

Prospectus for entry in 1973 - Arts/ Social Science

##### **Heriot-Watt University, Edinburgh**

Annual Report 1971-72

Guide for Applicants 1973-74

Guide to Postgraduate Studies and Research 1970-71

##### **King's College London**

General Prospectus of Undergraduate Courses 1969

##### **The City University**

General Prospectus 1973-74

##### **The Queen's University of Belfast**

Calendar 1962-63, 66-67

##### **The University of Aston in Birmingham**

General Prospectus 1973-74

##### **The University of Birmingham**

Calendar 1972-73

Prospectus of First Degree Courses 1973-74

##### **The University of Hull**

Calendar 1957-58

Degree Syllabus 1965-66 - Bachelor of Science/ Science in Economics/ Law/ Arts

General Prospectus 1965-66

##### **University College London**

Prospectus 1962-63 - Faculty of Law/ Faculty of Arts & Science

Prospectus 1963-64 - Bartlett School of Architecture/ School of Librarianship & Archives

Prospectus of First Degree Courses 1970-71

##### **University of Bath**

Prospectus 1973-74

##### **University of Edinburgh**

Annual Report 1969-70, 70-71, 71-72,

Programme of the Faculty of Arts 1965-66, 66-67

Programme of the Faculty of Medicine 1965-66, 66-67

Programme of the Faculty of Veterinary

Medicine 1965-66

**University of Essex**  
 Calendar 1965-66  
 Prospectus 1966-67/ 68-69/ 73-74  
 Vice-Chancellor's Report 1971-72: Part 1&2  
 Vice-Chancellor's Report 1964-65

**University of Exeter**  
 Prospectus 1961-62  
 General Prospectus and Regulations 1966-67

**University of Glasgow**  
 Report of the University Court 1970-71

**University of Keele**  
 Foundation Year Programme 1965-66  
 Prospectus 1964-65/ 66-67/  
 Postgraduate Prospectus 1965-66

**University of London**  
 General Information for Internal Students  
 September 1962  
 Regulations for the Degrees of Bachelor and  
 Master of Pharmacy for Internal Students in  
 the Faculty of Medicine – 1965-66

2 一般書籍

Associated Examining Board, *Report for the  
 General Certificate of Education covering  
 the period 8 May 1953 to 30 September 1956*,  
 London, 1956.

Department of Education, King's College,  
 Newcastle upon Tyne, *Talks to Teachers of  
 English*, Newcastle upon Tyne, Malcolm Ltd.,  
 1959.

Government Publications Sectional List No.2,  
*Department of Education and Science*,  
 London, H.M.S.O., 1964.

Ministry of Education Pamphlet No. 26,  
*Language: Some Suggestions for Teachers of  
 English and Others in Primary & Secondary  
 Schools and in Further Education*, London,  
 H.M.S.O., 1954.

Lionel Elvin, *Studies in Education: 8.  
 Education and the End of Empire*, London,  
 University of London Institute of Education,  
 1956.

Houghton, W. F. , *Special Studies in Secondary  
 Schools*, London, London County Council,  
 1957.

Savage, Graham, *Technical and Commercial  
 Studies in Secondary Education*, London,  
 London County Council, 1950.

Savage, Graham, *Trends in Primary  
 Education*, London, London County Council,  
 1950.

NFER, *National Foundation for Educational  
 Research in England and Wales: Eleventh  
 Annual Report 1956-57*, London, 1956.

NFER, *Bulletin of the National Foundation  
 for Educational Research in England and  
 Wales: No. 11*, London, 1958.

NFER, *National Foundation for Educational  
 Research in England and Wales: Thirteenth  
 Annual Report 1958-59*, Essex, 1959.

Thomas, Elfed, and Hickman, R. G. K.,  
*Development of Secondary Education*,  
 National Union of Teachers Blackpool  
 Conference, Watford, 1956.

Gould, Ronald, *Prospectus—Its Activities  
 Achievement and Aspirations*, London,  
 National Union of Teachers, 1952.

National Union Students, *NUS Year Book  
 1958: Including a Directory of Student  
 Organizations*, London, 1958.

Paton's List of Schools and Tutors 1948: An  
 Aid to Parents in the Selection of Schools,  
 London, J. & J. Paton, Ltd, London, 1948.

Truman & Knightley, Ltd., *Schools—1965: A  
 Directory of the Schools in Great Britain and  
 Northern Ireland Arranged in Order of their  
 Countries and Town: Including Statistical  
 Information Regarding Recognised Public  
 Schools for Boys selection s for Tutors and  
 Career Training Courses and Schools on the  
 Continent of Europe*, London, 1965.

Burnet, J.F. and Taylor, L.W. (ed), *The Public  
 and Preparatory Schools Year Book 1948*,  
 London, Adam and Charles Black, 1948.

The Standing Committee of the London  
 Conference on Overseas Students, *Overseas  
 Students in Britain: A Handbook for All who  
 are Interested in the Welfare of Overseas  
 Students*, Kent, Kent Paper Company, Ltd.,  
 1962.

以下、次号に続く。

(宮島健次)

## 運営委員会報告

2018年5月12日、専修大学神田校舎にて2018年度第一回運営委員会を行いました。概要は次の通りです。

(1) 会員数について

2018年4月1日時点での会員数は100名です。

(2) 2017年度決算(案)について

学会会計は依然として赤字ですが、節約に努めた結果、単年度では約4万円の黒字となる見通しです。

(3) 2018年度大会について

日程や内容については今号 pp.1-3 の通りです。なお、例年1,000円だった大会参加費について話し合い、学会財政の逼迫状況に伴い学会から支出する大会開催費等を抑制するために、参加費を一般会員3,000円、学生会員1,000円とすることにしました。ご理解のほどよろしくお願いたします。

(4) 紀要について

(5) 2018年度予算(案)について

(6) ニュースレターNo.51について

(7) 教育関連学会連絡協議会について

WERA2019のシンポジウムの出展について審議し、本学会からの出展は見送ることになりました。

(8) 日本教育政策学会シンポジウムへの後援について

(青木研作)

## 紀要編集委員会報告

紀要22号では昨年の大会テーマ「現代日本の教育動向をどう見るか—英国人たちの視点」に関する論考のほか、自由投稿論文等を掲載予定です。8月下旬に発行できるように現在作業を進めております。編集作業の過程ではぎりぎりまでご迷惑をおかけするかと存じますが、どうぞよろしくお願いたします。

### 紀要の原稿を募集しています

紀要第23号(2019年8月発行予定)の自由投稿論文を募集しています。編集委員会としては次号の総頁数のおよその見当をつけたいと思いますので、投稿の意思のある方は2019年1月末日までに、氏名・所属・論文タイトル(仮のものでかまいません)をメールでお知らせください。なお、投稿の意思表示がなくても、ご投稿いただけます。論文の投稿の締め切りは2019年3月末日です。

投稿意思表示および投稿論文の提出先は「日英教育研究フォーラム紀要編集委員会」[kiyou@juef.sakura.ne.jp](mailto:kiyou@juef.sakura.ne.jp)です。投稿論文のテンプレート及び投稿規定は日英教育学会HP(<http://www.juef.sakura.ne.jp/newsletter.html>)でご確認ください。

(高妻紳二郎、清田夏代)

## 学会会費をお支払いください

2018年度会費をお支払いください。

過年度会費未納の方につきましては、併せてお支払いをお願いします。

また、規定に基づき、三カ年会費未納の方は、除籍されます。くれぐれもご注意ください。

※2018年度より会費が **8,000円** となっておりますので、お間違えのないようお願いいたします（学生会員は6,000円です）。

## 会員種別、メールアドレス、住所確認のお願い

2018年度より一般会員と学生会員の種別を設けることになりました。学生会員の定義は「学生で有職者を除く者」です。学生会員に該当される方は、事務局までメールでお知らせください。

また、メールを利用して学会からのお知らせを行うことが増えていることから、会員の皆様の現状のメールアドレス（あわせて住所についても）を確認させていただきたく存じます。同封の書面をご確認ください。

間もなくサッカーW杯が開幕します。日本とイングランドはグループリーグを突破すれば決勝トーナメント1回戦で対戦する可能性があるようです。日本の前評判は低いですが、可能性を信じながら4年に一度の祭典を楽しみたいと思います。本ニューズレターでは今年度の大会の中心にお知らせしました。清田会員、仲田会員のご尽力で大変興味深い公開シンポジウムが計画されております。また、大会二日目の自由研究発表につきましても、多数の申込をいただいております。発表題目や要旨については、後日メールやホームページでお知らせいたします。8月に皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

(青木研作)

日英教育学会 (Japan-UK Education Forum) 代表 広瀬 裕子

◆事務局 〒114-0033 東京都北区十条台 1-7-13

東京成徳大学子ども学部・青木研究室内 TEL 03-5948-4464

◆問い合わせ先 jimukyoku@juuf.sakura.ne.jp

◆郵便振替 00170 2 780381 日英教育学会

◆三井住友銀行 武蔵関支店 総合 6651815 日英教育研究フォーラム事務局長 青木研作